

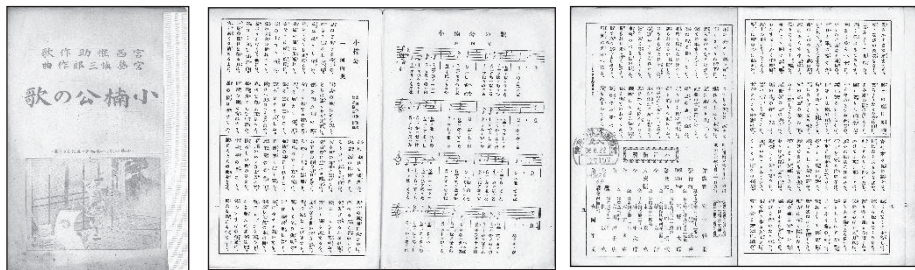
しょうなんこうのうた

#23 小楠公の歌

作歌：宮西惟助（みやにし・これすけ 1873-1939）

作曲：宮島慎三郎（みやじま・しんざぶろう 1872-没年不詳）

刊行：明治34年（1901）



※左より、表紙、楽譜、歌詞



♪ 解題

■ 内容

本書は南北朝時代の武将・楠木正行（くすのき・まさつら）の最期を歌う歴史唱歌「小楠公の歌」を掲載した冊子である。表紙、数字譜を付記した五線譜、歌詞の全8ページで構成される。正行は南北朝時代、足利尊氏（北朝）方と後醍醐天皇（南朝）方が政権を争った際、南朝方の武将として活躍した武将・楠木正成の嫡男である。「大楠公」と称される正成に対し、正行は「小楠公」と称される。父・正成は尊氏との戦（湊川の戦い）（1336）で討死にし、正行はその13年後に父の遺志を継いで挙兵した。軍記物語「太平記」には、幼少の正行と死地に赴く父正成との別れや、正成の再来と恐れられた正行が、四条畷の戦い（1348）において激戦の末に重傷を負って自刃する様子が描かれ、いずれも名場面とされる。楠木親子の伝承は、「忠君」「孝行」という徳目を教えるために最適な題材であり、戦前には数多くの唱歌が作成された。本作品もその中の1つである。

表紙には、如意輪堂本堂の扉に矢じりで辞世の句を刻む正行の様子が描かれている。七五調で綴られる歌詞は、湊川の戦いにおける正成との別れと教えを想起する1番に始まり、四条畷の戦いに臨む決意を経て、ともに戦った弟の正時と交刺して自刃する4番で終わる。

国立国会図書館サーチによると、本書は、公共図書館では当館のみ所蔵が確認できる。同じ題名の唱歌が『小学生徒運動唱歌』『新撰軍人必携』等に所収されていることも確認できるが、こちらは本作品とは別の唱歌である。なお、「思ひぞ出づる櫻井の」の歌詞で始まる本作品は唱歌集『唱歌萃錦 上巻』にも所収されている。

■ 作者

作歌の宮西惟助は、明治～昭和初期の神職で、東京に生まれる。國學院大学にて学んだあと、宮内省図書寮を経て國學院大学講師となる。根津神社社司、日枝神社宮司のほか、東京府神職会会長、國學院大學教授、全国神職会副会長等を務め、神社制度問題に尽力した。

作曲の宮島慎三郎については、詳細は不明だが、別名を宮島美鈴という。当館唱歌コレクションには、同じく宮島作曲の『小學唱歌 小運動會』(1903)『小學唱歌 鬼女紅葉』(1903)がある。この他、国立国会図書館サーチによれば、「鴨緑江」の作曲者であることも分かる。また、国立国会図書館デジタルコレクションでは、明治41年(1908)発行の『地理歴史山形唱歌 第1～3編』、明治44年(1911)発行の『誉之扇』を閲覧できる。

♪ 参考文献

- ・『太平記論序説』中西達治著 桜楓社 1985 [913.46/17]
- ・『神道人物研究文献目録』國學院大學日本文化研究所編 弘文堂 2000 [170.31/5]
- ・中山エイ子「初期の軍歌と「楠公」の歌」(『明治唱歌の誕生』中山エイ子著 勉誠出版 2010) [767.7/239]
- ・嶋田由美「歴史唱歌と唱歌教育」(『唱歌教育の展開に関する実証的研究』嶋田由美著 学文社 2018) [375.76/10]